



前期 学校評価の結果について

2 学期がスタートして、1 週間が過ぎました。子どもたちの生活リズムが徐々に戻り、学習や運動に一生懸命に取り組む姿が至るところで見られるようになりました。

さて、1 学期末には、学校評価への御協力ありがとうございました。学校評価の結果から 1 学期を終えた時点での主な実態は以下の通りと考えます。

○子どもが昨年度よりも、自己肯定感が高まり、個々が目標を持ち、学校生活に取り組んでいるのではないかと。「学校評価（児童）一年間の推移」によると、1 年前よりもすべての項目で加重平均の数値が上昇している。

○子どもの自己評価では、「あいさつ」、「規範意識」に関して、1 年前よりもできていると評価しているが、保護者・教師はまだ十分ではないという評価をし、ズレがあるのではないかと。

△「学習意欲」はあるが、「学習理解」がまだできていないのではないかと考えられる。保護者は一年間の推移で「学習理解」の評価が下がり、教職員は低い数値となっている。

△「15 分×学年の家庭学習」そのものの取り組みが適しているか、どんな内容の家庭学習がよいのか等、改善が必要なのではないか。

いただいた回答については、集計し、全職員で考察を行いました。2 学期以降の教育活動がさらに充実するよう、以下の「学習に関わること」、「学校生活に関わること」の 2 点について、特に結果に基づいた考察や今後の教育計画を取り上げましたので、裏面と合わせて御一読ください。

<学習に関わること>

- ① 「家庭学習」の時間や内容に関わることの見直し。15 分×学年の目標をどうしていくか。
→「家庭学習課題提出率調べ」を試行し、今後の課題見直しへの足がかりを作る。
- ② 「学習理解」をどのように高めていくか。
→支援員が座席表を活用し、担任と連携した個への学習支援の充実を図る。（低学年から試行）

<学校生活に関わること>

- ① 「あいさつ」について
 - 昇降口前や教室入り口では、あいさつができている。
 - 「子どもたち自身」に向上を実感させる具体的な手立て
→あいさつした側と同様のあいさつが返ってくるようにしたい。
- ② 「規範意識」について
 - 子どもたち自身の評価を高める具体的な手立てを講じることと、教師側はどこをポイントに評価しているか検証する。
→全校で取り組むルールを 1 つ決める。
子どもたちに、達成できたかが明確に分かるめあて 例) 名札を付ける